

一般質問

一般質問とは、市の事務や市が抱える課題等について市長などにただすもので、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、質問時間を短縮し実施しています。12月定例会では17名の議員が一般質問を行いました。ここでは、議会広報委員会が事項別に整理した内容の一部を掲載しています。

一般質問の全文は、2月中旬作成予定の議会記録に掲載します。図書館や鎌倉市議会ホームページ内「議会記録検索システム」でご覧ください。

高齢者福祉

高齢者福祉について、次の質問が行われました。

【コロナ禍の高齢者の健康】
 質問：コロナ禍で、家にこもり気味の方が多く、一人暮らしや高齢夫婦世帯の方の健康が心配されるが、その方々へはどのような取り組みを行ったのか。

健康福祉部長：令和2年3月末から4月の初めに、75歳以上の方と一人暮らしの65歳以上の方に、高齢者専用電話相談窓口の開設のお知らせと、感染リスクを下げる方法、免疫力を高めるためのポイントなど健康づくりに関するリーフレットを郵送した。また、5月中旬に再度、自宅でできる運動の紹介と併せ、生活上の困り事を身近に相談できる場所として地域包括支援センターの案内を郵送した。その他、市ホームページで、コロナ禍でも元気に過ごすためのアドバイス掲載したチラシを紹介するとともに、民生委員の協力を得て、紙媒体でも情報を届けた。

質問：高齢者の健康状態が低下している今こそ、フレイル

ヤングケアラー

ヤングケアラーについて、次の質問が行われました。

質問：18歳未満で家族の介護を担っているヤングケアラーは、日々の介護に追われ、高齢者に配布している福寿手帳を協賛店舗に提示すると割引の特典が受けられない。高齢者が街に出るきっかけとなり、生き生きと暮らすことができるための支援策の一つとして、令和3年度の実施に向けて取り組みたい。

質問：運転免許証を返納しても、バスの本数が少なく出かけるのに地域がある。高齢者が元気に暮らし続けるようにするために、インフラ整備に真剣に取り組む必要があると思いが、いかがか。

共創計画部長：移動手段の充実に対するニーズは近年高まっていると認識している。一方、公共交通機関でも、運転手の高齢化や不足などにより、従来の路線やサービスを維持することすら難しいと聞いている。市民の移動手段を維持するには、従来の手段のみでは限界であり、福祉有償運送や地域住民、NPOによる支援など、さまざまな手法を活用し、持続可能な仕組みをつくるのが不可欠である。

健康福祉部長：高齢者の交通優待制度として、令和2年11月から運転免許証を自主返納した方を対象とした交通費の補助制度を始めた。次期高齢者保健福祉計画においても、引き続き高齢者が元気に暮らせる仕組みづくりに取り組んでいく。その中で、65歳以上の全ての

学習や就職に支障が出るなどの問題に直面している。ケアに負担を感じても、自分だけで抱え込み、実態を把握しにくいことが問題である。市ではヤングケアラーをどう把握しているのか。

教育部長：地域訪問や保護者面談の際に家庭での子どもの状況を可能な限り把握しており、子どもの疲れ、遅刻や欠席の増加など気になる様子が見られたときに、教師が声を掛けることで、家庭の状況や養育について心配な状況であることが分かる場合がある。民生委員・児童委員などから「子どもと家庭の相談室」を通じ、また、要支援の家庭として「要保護児童対策地域協議会」を通じ、学校に情報提供される場合もある。

質問：埼玉県内の高校2年生全員への調査では、回答者の4・1%が通学しながら家族の介護や世話をしているが、ヤングケアラーであり、このうち4分の1が、悩みを話せる相手がないなど、子どもへの負担が浮き彫りになった。学校以外の庁内の相談窓口はどこか。

子どもみらい部長：ヤングケアラーは18歳未満の子どもであるため、市役所の中では、子どもと家庭の相談室が相談先となっている。

質問：1人の子どもの家族のケアラーになつていく場合、その背景には、家族の病気や障害、苦しい家計、社会的な孤立などのさまざまな問題が絡み合っている。横断的な支援が必要だ

が、保護者と子どもについてそれぞれの具体的な支援が考えられるか。

同部長：子どもと家庭の相談室で、支援が必要なヤングケアラーについて相談を受けた場合には、丁寧に相談内容を聞き取った上で、要保護児童対策地域協議会の枠組みを活用し、支援を検討していくことになる。具体的には、関係機関との情報共有を行う会議を開催し、その家庭に必要な支援を見極めた上で、保護者に対しては、例えば配食サービスや障害福祉サービス、生活保護などの支援を、子どもに対しては、居場所や学習支援に関する情報の提供を行うなど、各種の横断的な支援につなげている。

質問：国や他自治体ではヤングケアラー支援に動き出している。本市は、鎌倉市共生社会の実現を目指す条例と、子どもがのびのびと自分らしく育つまち鎌倉条例を制定した。市長はヤングケアラーの課題をどう捉えているか、今後の支援をどう進めていくか聞きたい。

市長：子ども自身が家族のケアを日常と受け止めて、ケアしている自覚がなかったり、自身がケアラーであるということあまり知られなくなったりするため、顕在化しにくい問題であると認識している。子どもの健全な学び、育ちを見守り、保障していくことは非常に重要であると認識しており、条例を念頭に置きながら、学校、教育委員会と連携し、大切な子ども期を保障するための支援に取り組んでいきたい。



【用語の解説】

※フレイル

加齢に伴い、心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下していく、健康な状態と介護を必要とする状態の中間的な段階をいう。

※オンデマンドモビリティ

スマートフォンや電話による利用者からの要求に応じて、乗合自動車が迎えに行き、エリア内の乗降ポイント間を移動することができるサービス。

一般質問項目一覧

一般質問の録画中継映像は、こちらからご覧いただけます▶



- ① 前川 綾子（鎌倉みらい）
 - 1 コロナ禍における福祉の状況について
 - 2 アダプト・プログラムの活用について
- ② 松中 健治（無所属）
 - 1 SDGsの取り組み
 - 2 防災
 - 3 鎌倉の歴史。大河ドラマの放映に対する思い。
 - 4 やぐら、名越釈迦堂
- ③ 長嶋 竜弘（無所属）
 - 1 鎌倉市政に異論反論オブジェクションVOL.12～コロナ禍と気候非常事態による変化への対応2～
- ④ 納所 輝次（公明党）
 - 1 コロナ禍を教訓とする市政のあり方について
- ⑤ 保坂 令子（神奈川ネット鎌倉）
 - 1 立地適正化計画について
 - 2 公的不動産利活用などの事業を進める上での市民参加について

- ⑥ 日向 慎吾（鎌夢会）
 - 1 海岸と海洋ごみについて
 - 2 地域の交流の場について
 - 3 腰越駅周辺の駐輪について
- ⑦ 池田 実（鎌倉みらい）
 - 1 コロナ禍における市民生活への影響と役所の役割について
 - 2 深沢地域整備事業と関連事業について
- ⑧ 志田 一宏（自民党鎌倉市議団）
 - 1 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について
- ⑨ 千 一（無所属）
 - 1 鎌倉市内の高齢者施設・グループホーム及び障がい者施設・グループホームなどでのコロナ対策について
 - 2 民主主義と郵便投票について
 - 3 障がいの変化と福祉サービスについて
 - 4 3か月たっても変わっていない危険な空き店舗について
- ⑩ 河村 琢磨（ヴィジョン）
 - 1 今、自治体が取るべき行政対策とGOVテックについて
 - 2 DX時代に教育現場が抱くべき危機感について
- ⑪ くりはらえりこ（無所属）
 - 1 市民の安心・安全対策について（SDGs目標11）

- 2 新型コロナウイルス感染症第3波への対策について（SDGs目標3・17）
 - 3 サスティナビリティ（持続可能性）を超えたリジェネレーション（再生）とサーキュラー（循環）によるウェルビーイング（持続可能な幸せ）について（SDGs目標1～17）
 - 4 教育現場でのSDGsの取り組みについて（SDGs目標4）
- ⑫ 竹田 ゆかり（無所属）
- 1 「GIGAスクール構想」の推進にあたって
 - 2 「ジェンダー格差」解消に向けて（II）
 - 3 「学校職場環境改善プラン」と今後について

- 4 教育条件整備について
 - 5 学校施設整備について
- ⑬ 森 功一（自民党鎌倉市議団）
- 1 2022年NHK大河ドラマについて
- ⑭ 大石 和久（公明党）
- 1 市長の政治姿勢について
- ⑮ 安立 奈穂（神奈川ネット鎌倉）
- 1 大切な子ども期を保障するための支援
- ⑯ 吉岡 和江（日本共産党）
- 1 安心して住み続けられる鎌倉を目指して
- ⑰ 高野 洋一（日本共産党）
- 1 市役所本庁舎の移転事業と「村岡新駅」建設について
 - 2 民有地における樹林管理・崖地対策の抜本的強化について